

徳島市国病院だより

徳島市民病院の理念 「思いやり・信頼・安心」

令和6年8月

〒770-0812 徳島市北常三島町 2 丁目 34 番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

第33回 地域医療連携会 開催

7月4日にパークウエストンホテルにて、第33回 徳島 市民病院 地域医療連携会が開催されました。連携医関係 の方々は67名、当院からは80名と近年では最多の参加 者数で、1階のボールルームは一杯になりました。

総会は中野 俊次 院長の挨拶で始まり、地域医療連携会運営委員会報告として当院の取り組みが詳しく紹介されました。続いて渡邉 貴紀 外科診療部長より「徳島市民病院における大腸癌治療」に関する講演がありました。大腸癌症例にて手術だけでなく、薬物療法が効果的であった転移症例などが報告されました。次に、手塚敏史 内科主任医長より「エンドタイプに基づく喘息治療」が発表されました。最近の喘息治療は分子生物学的に分類されて行われており、ステロイドの効きにくいタイプが分かることなどが示されました。

その後、当日出席できた6名の研修医が紹介されました。これからの徳島の医療を担ってくれる先生方であり、大変頼もしい光景です。また、責任者による各科の紹介も行われました。

懇親会は会場を3階アニエスルームに移して催され、 三宅 秀則 病院事業管理者、宇都宮 正登 徳島市医師会 長の挨拶の後、宮内 吉男 徳島市医師会副会長の乾杯で



講演会では渡邉 貴紀 診療部長と手塚 敏史主任医長が登壇



三宅 秀則 病院事業管理者より懇親会 開会の挨拶

開始されました。懇親会では普段なかなかお会いできない 先生方とも話すことができ、これからも顔の見える関係 を築きつつ、徳島の医療を担っていかなければならない と実感しました。

会場は大いに賑わい、坂東 智子 徳島市医師会副会長 の中締めの後も、22時過ぎまで歓談が続きました。

(副院長 日野 直樹)

当院への紹介患者数



市民病院まつり開催

7月20日、第12回 市民病院まつりが開催されました。新型コロナウイルスが5類感染症に移行され2年目の夏、感染者数は増加傾向にありますが、対策について委員会等で検討し準備を進めてきたものです。

当日は中野院長の開会宣言に始まり、体験コーナー、救急車両の展示、健康相談、コンサート、バザーなど多彩なイベントが行われ、院内は大勢の市民の皆さんが行き交い、笑顔で溢れていました。

今回は「簡単に血液型を調べてみよう」、

「TOYOTA 水素自動車 MIRAI展示」など新イベントの追加により、例年とはまた違う病院まつりを楽しんでいただけたのではないかと思います。

病院まつりは、健康な市民の皆さんも気軽に足を運んで当院を知っていただく機会の一つとなっています。普段あまり来院者と接することのない部署の職員にとっても、当院の理念である「思いやり・信頼・安心」を自然に意識することのできる機会であると実感しました。(医事経営課 泰地 涼風)



トクシィとすだちくんもお出迎え



こどもお薬教室



二胡(花水月)コンサート



箱の中身はなんだろな?



医療機器を操作してみよう



簡単に血液型を調べてみよう



健康チェックコーナー



心臓マッサージとAEDの講習



福富 弥生氏コンサート



救急車見学

病理学会中国四国支部学術集会で優秀演題賞に選出

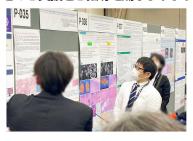
令和5年4月から病理診断科で勤務させていただいております、富田満と申します。配属以降、日本病理学会総会や地方会で発表の機会を頂戴しており、昨年11月25日に行われた第142回日本病理学会中国四国支部学術集会(スライドカンファレンス)にて、当院で経験した顎下腺腫瘍の一例を報告し、優秀演題賞を受賞いたしました。

発表させていただいた症例は診断に大変難渋しましたが、 徳島大学大学院口腔分子病態学分野にRT-PCRを依頼し、 疾患特異的な融合遺伝子を分子病理学的に検出したことで 確定診断に至りました。症例報告においては、診断上のclue やpitfallについて有意義な提起ができたのではないかと考え ております。

診断や発表においてご助力いただきました、当科総括部長

堀口 英久先生、徳島大学大学院 医歯薬学研究部 口腔分子 病態学分野 常松 貴明先生、石丸 直澄先生、徳島大学大学 院 医歯薬学研究部 疾患病理学分野 常山 幸一先生、当院耳 鼻咽喉科の先生方、そしてスタッフの皆様方に心から感謝 申し上げます。

今後も医療の質の向上に努めてまいりますので、引き続きのご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



(病理診断科 富田満)

●発表中の様子 (第113回 日本病理学会 総会時のもので、地方会 で表彰された発表内容を 含む)

リレー・フォー・ライフ 2024

6月1日、がん患者さんやピアサポーターを支援するチャリティーイベント「リレー・ フォー・ライフ・ジャパン2024とくしま」が、徳島市のふれあい健康館で開催され ました。徳島での開催は13回目となり、がん患者さんやご家族、医療従事者や支援団 体など約300人が集まる中、若い世代の学生も多く参加しており、イベントへの関心 の高さがうかがえました。



フラッグには「ONE HOPE」の文字が

実行委員長の開会宣言の後、参加団体が紹介され、森田 敏文 患者支援センター

長補佐が挨拶を行いました。当院からは福森 知治副院長、橋本 年弘 がんセンター長、井出 普丈 医事経営課長補佐、長尾 由美副看護師長、川原 美穂が参加し、歩きながら支援を呼びかける「みんなでファーストラップ」を行いました。

また、がんとの向き合い方などを討論する座談会には当院医師2名が登壇し、早期発見の重要性や患者さんの気持ちを支 える周囲のサポートの必要性について話されました。

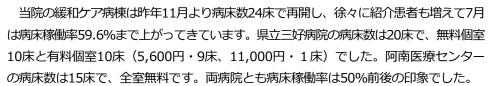
会場には、皆様からご寄付をいただいたルミナリエバッグもたくさん並べられており、添えられたメッセージや思いで優 しい空間となっていました。多くの方にご支援、ご協力いただきありがとうございました。(患者支援センター 川原 美穂)



好病院 緩和ケア病棟ラウンジ

緩和ケア病棟の視察へ

7月に、県内で緩和ケア病棟を保持している地域中核病院へ視察に伺いました。7月 11日は県立三好病院、7月23日には阿南医療センターへ、三宅 秀則病院事業管理者・ 近藤 愛貴美 外科主任医長・森田 敏文 患者支援センター長補佐・岩井 久代の4名での 訪問です。



ともに公立の総合病院内の緩和ケア病棟であり、共通の悩みも多く参考となる情報を いただきました。今回の視察で顔合わせができたことで、互いの悩みを共有しつつ助言 しあえるような良い関係性を築いていければと思っています。 (看護部 岩井 久代)



新任医師ご紹介



平成25年より3年間 徳島市民 病院に在籍しており、このたび8年 ぶりに戻ってきました。早めの対 応で地域の先生方のお役に立てる よう、頑張ります。どうぞよろしく お願いします。



これまで外傷を中心に手外科、 関節外科など診療してきました。 市民病院では特に外傷の分野でお 力になりたいと考えていますが、 他の分野でもお気軽にご相談くだ さい。よろしくお願いします。



卒後3年目、整形外科所属の阿部 勇人と申します。7月1日より3ヶ月 間、勤務させていただきます。まだ まだ知識も技術も未熟であります ので、ご指導ご鞭撻の程よろしく お願いいたします。

眉誠連 阿波踊り

8月15日、当院の愛好家有志で形成する「眉誠連」は、徳島県 の伝統芸能である阿波踊りに参加させていただきました。

中野 俊次 病院長をはじめとする職員ら約60名が集い、力強い 演舞を披露することができたと自負しています。院内での演舞を 見学してくださった患者さんからは、「徳島の夏を感じることが でき、嬉しかった」と、お声掛けしていただきました。演者、観 客ともに笑顔にする「眉誠連」であったことを喜ばしく思います。

(連長 松村 圭一郎)



1階 待合ロビーで踊りを披露



演舞場へと踊り込み



眉誠連一同、職員と子供たちで記念撮影

リレー企<mark>型</mark>

研修医日記

初期臨床研修医2年目の井垣 孝信と申します。この場をお借りして自己紹介させていただきます。

私は千葉県出身で、県立千葉高校を卒業した後、徳島 大学を経て徳島市民病院にやって来ました。学生時代は 様々な部活動でスポーツをしており、中学生の時は剣道 部に所属していました。レギュラーではありませんでし たが、関東大会に出場するような部活で、毎日一生懸命 練習していました。中学校の3年間が今までで最も体力的 に八ードな時期だったと思います。顧問の先生からは、 時には厳しく時には優しく指導していただきました。先生 が道場に書かれていた「実るほど頭を垂れる稲穂かな」 という言葉が、心に残っています。

大学時代はラグビー部に所属していて、スクラムでは 最前列のプロップというポジション(1番)でプレーして いました。スクラムを組む仲間と協力しながら、自分よ りも遥かに体格が大きい相手と対峙することは大変でし たが、とても良い経験になりました。一番大きな夏の大会 (西日本医科学生総合体育大会)では、部員が増えていく につれてだんだん勝ち進んでいったことが印象に残って います。

右も左も分からずにたくさんのご迷惑をおかけしていますが、周りの先生方からのサポートを励みにしてこれからもより一層頑張ります。

徳島市民病院の理念である「思いやり・信頼・安心」を 心掛けながら、少しでも貢献 できればと思っています。今 後とも、ご指導ご鞭撻のほど よろしくお願いします。

(初期臨床研修医 井垣 孝信)

初期臨床研修医2年目の山口 雄大と申します。いつも お世話になっております。

出身は福岡県で、小学校3年の前半まで久留米市で育ち、徳島には父の転勤で移住して高校まで過ごしました。最初は板東小学校へ転校し鳴門市大麻町に住んでいましたが、小学校卒業後は徳島市内へ引っ越し、徳島文理中学校・高校へ通っていました。高校卒業後は福岡へ戻り、1年間の浪人を経て大分大学へ進学しました。中学1年生から独学でギターをやっていたこともあり、部活は軽音部に所属してギターを担当しました。バンド練習では、メンバー同士で改善点を話し合い全体のサウンドを時間をかけて改善したり、個人練習やたくさんの曲を覚えるために夜遅くまで練習したり、夜が明けるまで飲み会をしたりと大変な時もありましたが、いい思い出もたくさんでき、自分の人生の中でかけがえのないものとなりました。

他県で研修することも考えましたが、元々馴染みのある土地だということもあって、市民病院を見学しました。 病院の雰囲気や研修スタイルが自分に合っており、すご く魅力的に感じて市民病院で研修することに決めました。

まだまだわからない部分も多く皆さんにご迷惑をおかけすることもありますが、丁寧なご指導をいただき非常に楽しく学べており、感謝の気持ちでいっぱいです。これ

からも様々な先生方やコメディカルの皆さんから指導、サポートしていただけるありがたみを忘れずに、謙虚な気持ちで研修に挑み精進して参りたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。

(初期臨床研修医 山口 雄大)

